

## 1-4 学びあい、地域とつながる人を育むまち②

### ◆現状における課題

【知（地）の拠点としての図書館】

- インターネット、SNSなどをはじめとする高度情報化が進む中、これからの図書館では、本を「読む」「貸す」だけでなく、地域課題解決の支援、多様な人材の交流・学習の場の提供など、新しい役割が期待されるようになってきています。
- 価値観の多様化が進む中、さまざまな市民ニーズに対応した資料やレファレンスサービス※1の充実、ICTへの対応等による利用しやすいシステムの充実が求められています。
- 2020年度開館予定のライブラリーセンターは駅前再開発の中心施設として、観光情報センター、カフェなどと一体となった駅前の「交流」と「賑わい」のための複合施設として設計されています。図書館が駅前の中心施設として十分な役割を果たしていくためには組織・運営体制の拡充・人材の育成など機能強化が課題となっています。
- 光丘文庫は施設の老朽化のため、所蔵している資料を平成28年度からの2か年で中町庁舎に移転しました。所蔵資料は古文書や漢籍※2といった専門性の高い貴重なものであり歴史研究者等の専門機関への周知や、誰もが気軽に触れることができるような展示方法などの課題があります。
- 光丘文庫のほかにも、市資料館等に歴史的公文書等の郷土史研究の観点からみて重要な資料が分散保管されており、利用者の閲覧環境が整備されていないため、郷土史の学習・研究や観光資源として十分に活用されているとは言い難い状況にあります。

区分\年度	H24	H25	H26	H27	H28
人口1人当たりの入館回数	3,63	3,54	3,59	3,44	3,29

【一人1スポーツの推進】

- これまでスポーツに関わってこなかった人に、スポーツを「する」「みる」「ささえる」機会に参画してもらうことが課題となっています。また、安全で快適な活動の場を提供するため、施設の適正な管理等が課題となっています。



ノルディックウォーキング

区分\年度	H27	H28
市及び地区コミュニティ振興会主催スポーツ行事への参加者数（人）	35,180	36,180

※1 レファレンスサービス  
知りたい資料や情報を、図書・雑誌・新聞・電子情報などから探すための案内をして、資料提供や情報提示により調べものの手助けをするサービス

※2 漢籍  
「論語」等の漢文で書かれた中国の本

◆みんなで考えよう「わたしにできること」 ※この欄は、主に総合計画未来会議における市民提案で構成しています。

- イベントやボランティアに参加するなど積極的に図書館を活用する
- スポーツイベントに参加する



### ◆今後の方向性と主な施策

【知（地）の拠点としての図書館】

- ライブラリーセンターの整備において、市民の知的好奇心や生活・ビジネス・学習等における課題解決など多様なニーズに応え、人が集い、交流する知の拠点としての図書館を目指します。
  - ・地域課題解決への支援
  - ・レファレンス機能の強化
  - ・観光客への郷土関連情報の提供
- 光丘文庫所蔵資料については、ライブラリーセンターとの連携を含め、積極的な利活用を進めます。
  - ・資料のデジタル化などICT時代に対応した情報発信の強化
- 郷土史資料の適切な保管・利活用を総合的に取り扱う施設の設置について、検討を進めます。

成果指標 | 人口1人当たりの入館回数 増加させる

【一人1スポーツの推進】

- スポーツボランティアの人材育成や企業スポーツの支援等を通して、また、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン登録を契機に、「する」「みる」「ささえる」スポーツの参画人口の拡大を図ります。
  - ・スポーツボランティアの育成と活動の推進
  - ・各種スポーツイベント情報等の発信
- 体育振興会や総合型地域スポーツクラブなどと連携しながら、すべての市民が「いつでも」「どこでも」「だれでも」「いつまでも」スポーツに親しみ、楽しめるスポーツ環境を提供し、健康増進を図ります。
  - ・地域スポーツ活動への支援
  - ・年齢や性別、障がいの有無に関わらず気軽にスポーツを楽しめる機会の提供
- ユニバーサルデザイン※3に配慮した体育館等スポーツ施設の計画的な整備と適正な管理を進め、安全で快適なスポーツ環境を提供します。
  - ・利用者のニーズに対応した施設の計画的な修繕、整備の実施

成果指標 | スポーツ行事への参加者数 (H28・2016) 36,180人 → (2022) 37,680人

### ◆関連個別計画

- 教育振興基本計画
- 生涯学習推進計画
- 文化芸術推進計画
- スポーツ推進計画



※3 ユニバーサルデザイン  
都市づくりや建築物、機種など障がいの有無および高齢者などの区別なく誰もが使えるように配慮されたデザイン